

雨のおはなし



タイトル	著者名	出版社	
『かさ』	太田 大八 作絵	文研出版	E/カ
<p>雨ふりの日、女の子が赤いかさをさして、お父さんのお迎えにむかいます。片手には、お父さんの大きなかさを持って、駅までの道を進みます。文字のない絵本です。</p>			
『えっちゃんのながぐつ』	野村 ユキ 作 峰村 亮而 絵	ひさかたチャイルド	E/エ
<p>えっちゃん、雨の日が大好きです。理由は、大好きなながぐつをはけるから。でも、帰りの時間になって、ながぐつをはこうとしたら、それはえっちゃんのながぐつではありませんでした。</p>			
『雨、あめ』	ピーター・スピアー 作	評論社	E/ア
<p>どしゃぶりの雨の中、きょうだいはカッパを着てながぐつを履いて、カサをもって冒険に出かけました。雨粒がついたくもの巣をみたり、車の下で雨宿りしているネコをみつけたり、びしゃびしゃになって遊びます。文字のない絵本です。</p>			
『あめ じょあじょあ』	イミエ 文 田島 征三 絵 おおたけ きよみ 訳	光村教育図書	E/ア
<p>「じょあじょあ」は、雨が勢いよく降る様子をあらわす、韓国の言葉です。水蒸気の小さな粒が、たくさん集まって地上に落ちてきて、海に流れ、また水蒸気になっていく様子を描いた絵本です。</p>			
『あめのひ』	サム・アッシャー 作絵 吉上 恭太 訳	徳間書店	E/ア
<p>朝から雨が降っていて、外に出かけられません。おじいちゃんは、「雨がやむまでまちなさい」というけれど、雨はなかなかやみません。</p>			
『どしゃぶり』	おーなり 由子 ぶん はた こうしろう え	講談社	E/ド
<p>真っ黒な雲が近づいてきて、大粒の雨を降らせます。うるさいほどの雨の音、空のにおい、地面のにおい、大きな水たまり。全身で雨を感じる男の子を描いた絵本です。</p>			
『雨ふる本屋』	日向 理恵子 作 吉田 尚令 絵	童心社	F/ヒ
<p>おつかいの帰ちみち、雨に降られたルウ子は、図書館で雨宿りすることにしました。図書館の奥へ入っていくと、そこは「雨ふる本屋」の入り口でした。ルウ子の冒険がはじまります。(中学年～)</p>			
『うわさの雨少年(レインボーイ)』	宮下 恵菜 作 丸山 薫 絵	ポプラ社	F/ミ
<p>楽しみにしているイベントがある日は、必ず雨が降るのはなぜだろう。お父さんに「雨男」といわれている、小学5年生の男の子・ハルのおはなし。(中学年～)</p>			
『にゅうどうぐも』(かがくのとも絵本)	野坂 勇作 さく 根本 順吉 監修	福音館書店	E/ニ
<p>夏の蒸し暑い日、山の上にはわた雲があらわれ、だんだんと大きくなっていきます。わた雲はモクモクと盛り上がって、にゅうどう雲になりました。</p>			
『雲ごよみ 天気と季節の観察図鑑』	高橋 健司 写真・文	山川出版社	451/タ
<p>雨はどうして降るのかな？天気や季節によって、形をかえる雲を観察しよう。雲の種類や雨が降る仕組みがわかる図鑑です。</p>			